

## 科学技術の反省

人類が生存した永い歴史から眺めると、人間はその初期に於いて自然の脅威から身を守ることに精一杯の状態であったが、その次の時代に入ると人間は自からの力で考え出した科学技術の力を駆使して自然を手なづけ支配しようと努力した。そして、その努力はかなりの成果をあげたかに見え、人間の自然支配の意識に一層の拍車がかかった。しかし、いまや自然は人類の生存条件そのものを脅かすような反応をもって、警鐘を鳴らしはじめた。

米国の或る著名な化学会社の発行する「ダウン・ツー・アース」という小冊子がある。何時頃から刊行されはじめたのかわからないが二十数年前の事である。当時余り論議されていなかったエコロジカルにとらえた「物質の遷移」を象徴的に表わした表題である。「全てのものを土に返す」まさに自然科学者の理念の様なものを感じ、格調高い指導理念の下に研究されている科学技術集団に対し敬意を表したい。

自然を人類の対立者、被支配者とみる時代は明らかに過ぎ、これからの人類は自らも自然の一員として、自然と平和的に共存せねばならない新しい段階に入ったと言える。

科学技術に対する反省は、こうした新しい時代認識に基いたものでなければならぬと痛感する次第である。

〔日本農薬株式会社常務取締役 津村武夫〕

## 目次 (第10巻第12号)

|                                      |    |
|--------------------------------------|----|
| 再び訪ソビエト連邦の旅をして……………                  | 2  |
| ＜財団法人日本植物調節剤研究協会＞<br>北陸支部長 木根淵旨光     |    |
| 1. 稲作技術……………                         | 2  |
| (1) 極東地区……………                        | 2  |
| (2) 黒海沿岸地帯……………                      | 2  |
| 2. 大豆作……………                          | 6  |
| 3. 小麦作……………                          | 6  |
| 4. 日本製自脱型コンバインTC<br>- 200 ……………      | 7  |
| 5. 見たまま、聞いたまま……………                   | 8  |
| (1) ハバロフスク……………                      | 8  |
| (2) ワジモフスキーソホーズ……………                 | 9  |
| (3) クラスノアルメンスキー……………                 | 11 |
| (4) モスクワ……………                        | 12 |
| ダイズの栽培と除草剤……………                      | 14 |
| ＜長野県農業総合試験場中信地方試<br>験場畑作 育種部長 御子柴公人＞ |    |
| 1. はじめに……………                         | 14 |
| 2. 機械化栽培などにおける障害……………                | 14 |
| 3. ダイズ作と雑草……………                      | 15 |
| 4. 各種栽培と除草剤……………                     | 19 |
| 5. 除草剤の散布方法……………                     | 20 |
| 6. 薬害……………                           | 21 |
| 7. 経営条件と除草剤……………                     | 21 |
| 8. おわりに……………                         | 22 |
| 昭和51年度林業関係除草剤・生育調<br>節剤試験成績概要……………   | 22 |
| 昭和51年度茶園関係除草剤試験成績<br>概要……………         | 24 |
| ＜財団法人日本植物調節剤研究協会＞                    |    |
| 外国文献妙録……………                          | 25 |